

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ひらお保育園【稲城市】

テーマ【育てて食べる】2歳児ちゅうりっぷ組

子どもの様子

テーマの設定の経緯：

・2歳児クラスに進級して落ち着いたころ、食事の場面で苦手な食材になかなか手が伸びない子どもたちの姿があり、いろいろな食材を知ってほしいとの思いがあった。食育を考える中で、保育者が以前子どもたちと一緒に育てたしいたけ栽培はどうかと考え、活動に取り入れてみることにした。園で観察したり育てたりすることで、野菜ができる過程も知ることができ、食材を身近に感じられるのではないかと考え活動を進めていった。

・担任保育士が以前しいたけ栽培の活動を行ったときに、育て始めてから収穫までの目に見える成長や変化が早く、興味や関心が膨らむ活動であると考えていた。

・初めにきのこの栽培キットを子どもたちの前で紹介する機会を設けると、まだこの栽培キットの菌床がどんなものなのか、わからない子どもたちの姿がある。

・しいたけの菌床に霧吹きを続けて数日、きのこのかきが見えてきてきのこのこととわかり始めた子が、触ってみたりいろいろな角度から眺めたりしていた。

・廊下の台の上に置いてあるしいたけをみて自分の父母と言葉を交わして観察している。

・「大きくなあれ～」と期待する様子や、「大きくなってきた！」と育ちに気付く子どもの姿がある。

・「そ～っと触るんだよ～」と植物を大切に扱う姿がある。



振り返りをふまえた気づき

・野菜栽培などの中・長期的な食育活動に比べて、短期で目に見える変化がある活動の方が、乳児期の子どもにとっては特に興味関心が持続していた。紹介時には子どもが触れられるようにして、より身近に感じてもらった。継続的に触ってみたり水やりをしたりしてみようと声をかけ誘っていくことでより関心や期待感が増えていった。

・きのこが大きくなってくると、自分たちが食卓やスーパーで見たことのあるきのこの姿と、栽培している目の前のきのこが同じものであると結びついてきた。

・自分たちで育てていることで、「植物を大切にしよう」とする気持ちが芽生えて、丁寧に関わろうとする気持ちが芽生えていた。また、それを友だちに共有したり教え合ったりしていた。

・霧吹きをする中で、友だちとの会話がうまれ、霧吹きの使い方など教え合ったり一緒にやってみたりする姿も見られた。

探求活動の実践

活動：しいたけを育ててみよう①

環境をデザインする：

準備したもの・環境設定
しいたけ栽培キット・霧吹き



活動内容

・子どもたちの前に栽培キットの箱（きのこが育った時の写真が載っている）と菌床本体をみせて、説明していく。

・毎日朝や夕方の自由遊びの時間に、しいたけの菌床に霧吹きで水やりを行う。

・ドームに入れた菌床は廊下や玄関に置いておき、子どもや保護者が観察できる場所に置いておく。

活動期間：5月22日～5月30日

